

## 第八回フオト旬会優秀作品(4月11日)

<自由題>



ご老体

なお衰えぬ知識欲

濱田 優



貰い手のない

渋柿と末娘

中村 晃也



俺達も

ダンディフォーには

負けないぞ

中村 雅道

<寸評>

濱田優さん：三軒茶屋にある築ウン十年の木造建屋、よくみるとBSアンテナが設置されている。そこで一句という訳ですか？

中村晃也さん：昨夏暑かったので柿が豊作。でも渋柿。もっと綺麗な写真が欲しい。

中村雅道さん：よくまあ上手に四匹の雀を撮りましたね。一番響く声の持ち主が一步下がって歌うところも堂に入っています。私どものペンクラブ関連のコーラスグループがダンディフォーという名前でしたね。

<句 付 け>

4月のお題写真



豪雪や観光客や迷惑や

大越 鈍鬼

山里の冬はまるごと砂糖菓子

三 春

過疎の村雪と明かりで人集め

平尾 富男

古民家のぬくもり求め孤族たち

大月 和彦

<寸 評>

今月のお題写真は雪に埋もれた五箇山合掌部落（中村さん）でした。

大越さん：現地の集落に住む人々の立場にたって本音を代弁したもの。「や」が三つ連続してたたみかける調子に説得力があります。ここが俳句と違うところ。

三春さん：画像を直感的に捉えメルヘンテイックな可愛い句に仕上げています。（ブリッコしてる訳ではない。）

平尾さん：素直な句。画像の説明に流れているのが惜しい。

大月さん：都会に住む孤独な人たちを「孤族」と呼ぶのだそうです。尖った顔の狐族とは違うようです。

できるだけユニークな視点で自分の言葉で句を付けましょう。

次回のお題写真：提供は一席の大越鈍鬼さんをお願いしました。